

(別紙4－1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191513464		
法人名	一般社団法人 匠和		
事業所名	グループホーム 匠和(ユニットⅠ)		
所在地	北海道亀田郡七飯町本町6丁目7番33号		
自己評価作成日	平成28年3月22日	評価結果市町村受理日	平成28年4月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0191513464-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28 年 3 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

七飯町の中心部に位置しながらも自然豊かな環境の中で、入居者様とともに家庭菜園を営み土とふれあい四季を感じながらゆっくりとした時間の中で生活を送って頂けるよう取り組んでおります。当事業所の理念は『私達がさせていただきます 人生のお手伝い』職員・家族・地域の連携により入居者様一人一人の個性を尊重し、ケアしてゆくこと目指しております。秋には地域の皆様がたくさん集まる町内のイベントとして「匠和秋まつり」を実施しております。当事業所の入居者様は、昔、農家を営んでいたりと、農家の手伝いをしていたりという生活暦の方が多く、これもまた当事業所の理念に沿い、入居者様一人一人の生活暦を生かし生き活きとした表情を引き出すよう、日々、意識しながら入居者様との関わりを大切にしております。また、家庭菜園で収穫した野菜や付近で採れた山菜を食して頂き、食の部分からも四季を感じて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは七飯町役場や保健センター近くの国有林の緑に囲まれた閑静な住宅街に位置しています。ホーム内は明るく清潔感があり、利用者の笑顔の写真が飾られています。3年前に家族が春一番に見られるようにと傾斜地に植えた福寿草の小さな花が見る人の心を癒しています。家族は運営推進会議や家庭菜園の作業、秋祭り、敬老会、クリスマス会などのホームの活動に協力的で家族同士の絆が深まっています。ホーム長は利用者の入居により独居生活を余儀なくされた家族の安否確認と買い物、面会時の送迎支援を自主的に実行し、家族の生活支援を実践しています。また、ホームの特徴を職員の定着率が高いことと、食事の美味しさと即答してくれました。利用者は調理レクやおやつレクの時に職員が見守る中で料理に挑戦したり、近くで採った山菜を馴れた手付きで処理して食材にしたり、秋には枯葉を集めて焼き芋を作るなど、自然の恵みを取り入れながら自立できるよう支援に取り組み、家庭的な雰囲気があふれているホームです。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『「私達がさせていただきます 人生のお手伝い」職員・家族・地域の連携により入居者一人一人の個性を尊重し、ケアしてゆくこと』の理念を全職員が常に意識するよう心がけている。事業所内に掲示し、朝の申し送り時には全員で唱和している。	管理者と職員は利用者一人ひとりの個性を尊重し、職員、家族、地域の連携を基に「私達がさせていただきます、人生のお手伝い」といったホーム理念を共有し、実践に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「秋まつり」ではチラシ・案内を広く配布し、多くの地域の方々に参加して頂いている。また、敬老会やクリスマス会では地域の関係者の方々にもお声がけし、地域との交流に努めている。地域包括支援センターとの連携もしっかりできている。町内会の夏祭りや新年会にも参加している。	町内会の行事に参加し、ホームの秋祭りには町内会が屋台を出店しています。中学生の職場体験の受け入れもあり、七夕まつりでは大勢の子供達が訪れ、ボランティアの訪問や敬老会とクリスマス会は地域の方々の参加があり、地域との交流は盛んに行われています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症高齢者を抱えるご家族様や独居高齢者からの相談が多く寄せられ、その都度、早急かつ丁寧に対応できる体制ができており必要に応じて訪問したり、ご家族様、ご本人様の相談に親身に対応していると好評を得ている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や個別のテーマを設定し活発な意見交換ができるように努力している。行政、警察、消防署、学校、地域、ご家族様、入居者様、地域包括支援センター等様々なジャンルの方々には毎回お声がけし、サービスの向上に繋げている。欠席された方にも議事録を送付している。	定期的開催している運営推進会議は行政、中学校、消防署、警察署、町内会、同業者と小規模多機能事業所などの多彩なメンバーで構成され、ホームの現状報告とサービス内容を明らかにしてサービスの質の確保と向上を図り、議事録は全家族に配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、七飯町の担当者に出席して頂き実情を具体的にお話し、理解して頂いてる。日常的にも、問題点があった時にはその都度報告、指導を仰ぐように努めている。	地域包括支援センター職員や町担当者からは入居状況の確認や事例困難な入居者の相談やアドバイスを受け、介護保険関連などの書類の提出や町の安心ネットワーク事業の協力など連携を密にしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修の中に組み込み、身体拘束については全職員に周知徹底し、必要事項を事業所内に掲示している。玄関の施錠は自動ドアになっておりいつでも自由に出入りできる体制になっている。	全職員が携帯用身体拘束禁止マニュアルを常に身に付けて周知徹底を図り、内部研修会の中で身体拘束のないケアの必要性を理解し、抑圧感ない自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の中に組み込み、高齢者虐待防止法等については全職員に周知徹底し、必要事項を事業所内に掲示している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の中に組み込み、権利擁護については全職員に周知徹底し、必要事項を事業所内に掲示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者様及びそのご家族様等に説明し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をはじめ、できるだけ多くの機会に話し合いの場を設定するよう努力している。また、ご家族様が来所の際、個別面談にできるだけ多くの時間をとるように心掛け、意見、要望を運営に反映させるように努めている。毎月の機関紙の他、個別お便りも作成している。	運営推進会議は茶話会的な雰囲気家族が参加しやすいように工夫しています。参加する家族も忌憚のない意見や提案を伝え、表出された課題は運営に反映させています。ホーム内行事も家族の意向を確認して決めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や幹部会議、必要に応じ全体会議を開催し職員に自由に発言してもらい、運営に生かしている。また、職員の採用、運営方法、入居者様の受け入れ、入居継続の可否についてもその都度職員の意見を聞いている。	管理者は現場の職員の意見を十分に聞く機会をつくり、提案を取り入れ日々のケアに活かし、働く意欲の向上や質の確保に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を職員がいつでも見れるように身近に設置しており、不明な点、疑問なことがあれば納得できるまで説明するよう努力している。改善点があれば積極的かつ前向きな検討、改善するなど働きやすい職場環境作りを心がけている。今年度より処遇改善の一環とし年間休日数を増加した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	独自の研修会、勉強会、新人研修の年間計画を作成、実施、外部研修への参加の促し等で、職員のスキルアップに積極的に取り組んでいる。今年度は歯科保健事業に取り組んだ。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	南北海道GH協議会の研修、会議、催しには必ず参加しており、また七飯町内の他事業所とも、お互いのイベント等に行き来し交流を図っている。運営推進会議にもお互い声を掛け合い参加し合っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階の相談を受けたときには、ご本人様の現状、生活課題、生活歴等を出来る限り細かく分析、把握し、困っていること、不安なことに耳を傾ける努力を日々している。またホームの概要をお話し、見学を通して安心の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階の相談を受けたときには、親身になって相談を受けるよう心がけている。また、見学時には、体験的にご家族様、ご本人様が他入居者様と接する機会を設けており信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入にいたるまでの医療、介護、社会資源の利用状況の把握及びご本人様、ご家族様との面談により、ご本人様が何ができ、何ができないかを明確化するにより、必要としている支援を見極めるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様本人の主体性を基本にすることが、その人自身の症状や生活の質の改善につながるということを事業所理念を通して実践している。入居者様自身が主役になる場面（例えば、家庭菜園を行っているが、教えてもらうことが多い）を作り出している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。（例：湯茶の自由利用、関係再構築の支援等）また、クリスマス会や敬老会、秋まつり等のイベントに必ず招待し、ご本人様との楽しい時間が共有できるように配慮している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所に一緒に行ったり、生活歴やご家族様からの情報を参考に、当時の写真や物品を見ながら会話したり、馴染みの人を招待したりと、関係が途切れないように努めている。ご高齢のご家族様を定期的に迎えに行き、面会して頂く等の工夫をしている。	知人友人の訪問の来訪や以前に通っていたデイサービス事業所の職員が面会に訪れています。家族の入居により独居生活を余儀なくされた高齢の家族のためにホーム長は買い物や安否確認、ホームに面会のための送迎などを自主的に行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め当事者や他入居者様に不安や支障を生じさせないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご本人様、ご家族様に、機関紙や各種イベントの案内や招待状を送ったして関係性を大切にしている。また、ご家族様の方からの相談があればその都度相談に乗ったり、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のペースを尊重するため、職員は、職員の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者様が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。日々の会話やご家族様からの情報を参考にしている。	入居前に利用者の環境を確認し、入居しても違和感を与えないよう配慮しています。遠方に住む家族の意向を把握し、本人の暮らし方や思いを汲み取り支援しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人一人の生まれてからこれまでの生活歴、ご本人様にとっての大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めて行く態度ではなく、入居者様一人一人が自分で決めたり希望を表したりすることを大切にそれを促す取り組みを日常的に行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様や入居者、全職員の気づきや意見を取り入れ介護計画を作成しており、各々が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。モニタリングに関しては、システムの見直しに取り組んでいる最中である。	在宅当時の介護状況を把握し、家族の意向を取り入れながら現状に合った介護計画を作成しています。職員は介護提供記録に日常の計画実施状況を青ペンと記号を用いて記載しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者様一人一人の特徴や変化を具体的に記録している。また、記録時に文字の色を変え工夫し取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への受診付き添い、送迎、ご本人様の希望の買い物付き添い等、ご家族様、ご本人様の要望には、出来るだけ応えるよう、柔軟な支援、サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の料理店での外食、地域ボランティアによる慰問、七夕の時には地域の保育園児童の訪問交流、町会のお祭りでの山車の訪問等様々な形で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からの馴染みのかかりつけ医受診にはご家族様の協力を得て支援している。又、事業所主治医とかかりつけ医との連携が密になるよう情報の提供を出来るだけ細かく、正確にするよう心がけている。	町内に多種の診療科目の病院があり、定期受診や通院は職員が支援しています。看護職員は健康状況の把握や医療機関との連携を取り、夜間も対応しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝の引き継ぎ時等での介護職、看護職との綿密な打ち合わせや、身体の異常の発見、バイタルサインの確認等、報告対応を相談している。医療情報、受診の際の医師の指示などの分析、チェックを共同で行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が必ず同伴し、医療機関に情報提供し、相談するように努めている。又入院中もできるかぎり面会し、ご本人様、ご家族様に安心して頂けるように努めている。更に、日常的にかかりつけ医、病院関係者との関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、その都度、ご本人様・ご家族様・主治医・関係機関とカンファレンスを行い、当事業所でできる事をきちんと説明し納得して頂けるような体制作りをしている。また、入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明し同意を得ている。	入居時に重度化対応、終末期ケアの対応指針を家族に説明して同意を得ています。緊急時のマニュアルを整備し、かかりつけ医とホームの指針を共有し、協力体制を整えています。	前回の目標達成計画にある職員研修は諸事情により実施にすることが出来なかったため、新年度に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習Ⅰを受講し急変時、事故発生時に備え意識を高めている。また毎朝の引き継ぎ時、4項目からなる注意事項を読み合い事故を未然に防ぐよう努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に最低二回、地元の消防署の協力を仰ぎ、避難訓練、火災訓練、通報訓練を実施している。運営推進会議にも出来る限り。七飯町役場担当者、消防職員、警察職員に出席して頂き、相談し災害対策の強化と協力体制構築に努めている。今年度は救急救命講習も受講した。	年2回の日中と夜間想定訓練を消防署立会いの下に実施しています。出火場所を想定し、職員が自宅からホームまでの到着時間を測定して通報訓練に活かし、避難訓練を行い、終了後には消防署員が評価をしています。	消防署が近くにありますが、職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域の方々の協力を得る体制づくりを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に入居者様一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉がけや対応は行っていない。(入居者一人一人の尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法等)	ホーム内には接遇に関する5ポイントが掲示され、職員は利用者の誇りとプライバシー確保について常に確認し合い、利用者の情報や守秘義務について理解し、管理を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、入居者様一人一人が自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、それらを促す取り組みを日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	事業所の理念に沿い、入居者一人一人の個性を尊重し、その人のペース、希望を何よりも優先するように全職員が意識し、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好み、らしさを尊重し、職員と一緒に考え支援できる体制を作っている。衣類、化粧品購入は、ご家族様も含めて支援しており、その人らしい身だしなみ、おしゃれができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者様と同じ食事を楽しみながら食べ、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。また、お誕生日会にはご本人様の希望を聞き、メニューに取り入れている。調理レクとして月に最低一回は入居者様と共に食事作りを行っている。	管理者は食事の栄養バランスとカロリーに配慮して献立を作成し、菜園の野菜や山菜を食材にして季節感を出し、職員が利用者の目の前で握るお寿司には屋台を用意するなど楽しい雰囲気を作っています。食事担当の職員は彩り良い盛りつけと味付けを吟味して提供しています。、利用者と職員が同じテーブルで食事をしています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間の献立表を作成・実施しており、できるだけ早期に作成することにより、入居者様一人一人の摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを月を通し、また一日全体通じて正確に把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の力を引き出しながら、口腔内の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(例：歯磨き、入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツをできる限り使用しないで済むように、入居者様一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	職員は排泄パターンや生活習慣を把握し、声がけや2人介助などで支援しています。日中は利用者全員がトイレを使用していますが、夜間は安眠を優先しており、個々に合わせた支援を心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則的な排便習慣をつけ食物繊維を多く含む食品や水分を多く取るように促したり、メニューに取り入れるように努力している。また、運動や腹部マッサージなども取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入居者様一人一人の希望に合わせ、くつろいだ入浴が出来るように支援している。(時間帯、長さ、回数等を考慮している。)	週2回を目安にしています。失禁時はシャワー浴を利用し、入浴を拒む時には会話や入浴剤を替えて対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人一人の睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者様には、一日の生活リズム作りを通じた安眠策を取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を周知しており、入居者様一人一人が医師の指示どおりに服薬できるように支援し、症状の変化を確認している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内で入居者様一人一人が楽しみ事や出番を見いだせるよう場面作り等の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって散歩、買い物、外出ができるようご家族様にも協力を仰ぎ、ご本人様が満足し、喜び、生き生きと過ごせるように職員が一丸となって取り組んでいる。	ホーム周辺で山菜を採ったり、菜園の手入れや、近所の庭で花や木々を眺めながら散歩をしています。遠出のドライブには家族の参加もあり、外食、買い物など戸外に出る機会が多く、五感の刺激が得られるよう積極的に外出しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が自分でお金を持つことの大切さを職員が理解しており、日常の金銭管理をご本人様が行えるように、入居者様一人一人の希望や力量に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状をご本人様に書いて頂くよう支援している。また、ご本人様から希望があればその都度、ご家族様へのお手紙作成や電話をする体制はできている。またご家族様、知り合いからのお手紙を読むことが困難な方には読み聞かせている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず、ご家族様が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいように玄関まわりや建物の周辺が家庭的な雰囲気となるよう配慮している。また共用の生活空間（居間、台所、トイレ、浴室等）がいずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	ホームは平屋造りの建物ですが土地の事情で各ユニット毎に多少の違いがあります。玄関まわりや食堂、居間の家具の配置も家庭的で、台所は利用者と一緒に調理できる広さがあり、対面式の配膳用の棚にはガラス戸があり清潔感を保っています。室内は季節に合わせて装飾に変化をつけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に一人になったり、気のあった入居者様同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。全居室に温・湿度計を設置している。	大型のクローゼットが備え付けてある居室は在宅当時の家具や日用品があり、長めの暖簾でプライバシーに配慮しています。居室は在宅当時と変わらないように工夫し、利用者は思い出の品々に囲まれて生活をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体機能の低下に合わせ安全かつ出来るだけ自立した生活を送れるようにするための設備、工夫がある。また、場所がわからなくなることによる入居者様の混乱を防ぐための工夫をこらしている。		